

全国医療施設 開業ランキング レポート ver4

～2025年10月～12月・過去3年間比較～



<調査方法>
行政からの開業情報をもとに、
Review独自のクレンジングをおこなったデータより算出



Contents

株式会社Reviewは「人」と「IT」のチカラを組み合わせ、全国の店舗データおよび法人データを独自で、収集・整備・提供しているデータプロバイダーです。

日々データを更新、圧倒的な網羅性とリアルタイム性がございます。
そんな弊社ならではの、全国の医療施設に関する調査結果を発表いたします。

※保険適用の病院・診療所のみで集計。

全国病院&診療所開業ランキング 2025年10月~12月

病院&診療所開業全国TOP5/2025年10月~12月	…P4
全国病院&診療所開業ランキング	…P5
全国病院&診療所 月別開業ランキング	…P6
2025年秋 — 集中する開業動向と地域差が鮮明に	…P7~8

全国病院&診療所開業ランキング 過去3年間比較

全国病院&診療所 開業数ランキング/2023年~2025年	…P10
首都圏・中京圏が牽引した開業数の回復	…P11
2023~2025年 年間月別推移の概要	…P12

全国病院&診療所 診療科目別 過去3年開業数比較

全国診療所・病院 診療科目別 月別開業ランキング	…P14
全国診療所・病院 診療科目別ランキング/2023年~2025年	…P15

【コラム】 医師はいつ独立するのか

【コラム】 医師はいつ独立するのか	…P17~19
-------------------	---------

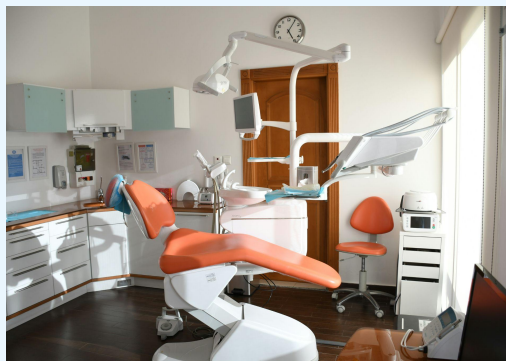
全国医療開業レポート ver4 まとめ

開業数は回復基調へ — 広がる開業タイミングと多様化する診療ニーズ	…P21
回復の先に見える、新たな開業の道	…P22



全国病院&診療所開業ランキング
2025年10月~12月

病院&診療所開業全国TOP5/2025年10月~12月



近年、医療機関の開業を取り巻く環境は変化を続けており、地域医療の担い手確保や医療提供体制の見直しなど、開業動向にも新たな視点が求められています。

本レポートでは、2025年10月~12月期を中心に、全国の病院・診療所の開業件数を地域別・診療科目別に分析。あわせて、2023年から2025年までの過去3年間の推移を比較し、開業市場の変化を整理します。

2025年10月~12月の全国病院&診療所開業数ランキングを発表いたします。
トップ5には、以下の都道府県がランクインしています。



1位
東京都

2位
大阪府

3位
愛知県

4位
神奈川県

5位
埼玉県



1位
東京都

1位 東京都(370件)

人口集積や高い医療需要に加え、再開発エリアでの新規開業ニーズも継続。診療科の多様化や自由診療領域の拡大も、都内開業数を押し上げている。



2位
大阪府

2位 大阪府(114件)

大阪市内では駅前再開発や人口流入エリアを中心に医療機関の新設が進行、地域密着型クリニックと専門診療型クリニックの両方で開業が活発化。関西圏における医療集積地として、安定した開業環境を維持している。



3位
愛知県

3位 愛知県(93件)

名古屋市を中心とした人口集中エリアに加え、周辺ベッドタウンでも新規開業が進む。都市型と郊外型の両方の開業ニーズが見られる点も特徴的。



4位
神奈川県

4位 神奈川県(90件)

住宅開発が進むエリアでは、内科や小児科など生活密着型診療科の需要が高く、地域医療インフラ整備の一環として開業が進んでいると考えられる。



5位
埼玉県

5位 埼玉県(88件)

首都圏ベッドタウンとしての人口増加が開業需要を支えている。特にファミリー層向け診療科を中心に、地域密着型クリニックの新設が継続している点が特徴的。

全国病院&診療所開業ランキング

2025年10月~12月の全国の病院&診療所開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2025年10月~12月 全国開業件数 **1,466件**

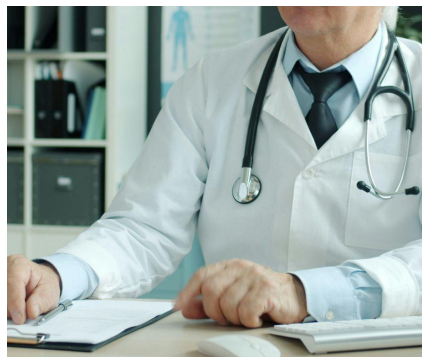
病院&診療所 / 2025年10月~12月				
都道府県		開業数		
TOTAL		1,466	24 山梨県	12
1	東京都	370	25 沖縄県	12
2	大阪府	114	26 和歌山県	11
3	愛知県	93	27 熊本県	11
4	神奈川県	90	28 山口県	10
5	埼玉県	88	29 山形県	9
6	千葉県	75	30 福島県	9
7	福岡県	62	31 群馬県	9
8	北海道	57	32 愛媛県	9
9	兵庫県	54	33 三重県	8
10	静岡県	35	34 高知県	8
11	京都府	31	35 長崎県	8
12	宮城県	28	36 秋田県	7
13	茨城県	24	37 徳島県	7
14	滋賀県	23	38 福井県	6
15	広島県	21	39 奈良県	6
16	長野県	19	40 青森県	5
17	新潟県	18	41 富山県	5
18	岐阜県	18	42 島根県	5
19	岡山県	16	43 鳥取県	4
20	宮崎県	16	44 大分県	4
21	鹿児島県	16	45 石川県	3
22	栃木県	14	46 香川県	3
23	岩手県	12	47 佐賀県	1

全国病院&診療所 月別開業ランキング

次に、2025年10月～12月の全国の病院&診療所の開業数を月別に比較し分析してみました。
結果は次の通りです。

病院&診療所 / 2025年10月～12月 開業数					
都道府県	合計	10月	11月	12月	
TOTAL	1,466	607	511	348	
1 東京都	370	165	114	91	
2 大阪府	114	39	40	35	
3 愛知県	93	41	34	18	
4 神奈川県	90	37	29	24	
5 埼玉県	88	23	42	23	
6 千葉県	75	18	35	22	
7 福岡県	62	30	21	11	
8 北海道	57	32	19	6	
9 兵庫県	54	20	20	14	
10 静岡県	35	14	13	8	
11 京都府	31	12	13	6	
12 宮城県	28	14	10	4	
13 茨城県	24	16	6	2	
14 滋賀県	23	5	9	9	
15 広島県	21	9	7	5	
16 長野県	19	5	7	7	
17 新潟県	18	7	6	5	
18 岐阜県	18	9	4	5	
19 岡山県	16	8	4	4	
20 宮崎県	16	12	3	1	
21 鹿児島県	16	7	4	5	
22 栃木県	14	3	9	2	
23 岩手県	12	7	3	2	
24 山梨県	12	4	3	5	
25 沖縄県	12	2	4	6	
26 和歌山県	11	2	5	4	
27 熊本県	11	6	3	2	
28 山口県	10	5	3	2	
29 山形県	9	5	3	1	
30 福島県	9	4	4	1	
31 群馬県	9	4	4	1	
32 愛媛県	9	5	3	1	
33 三重県	8	4	1	3	
34 高知県	8	3	2	3	
35 長崎県	8	2	6	0	
36 秋田県	7	7	0	0	
37 徳島県	7	1	5	1	
38 福井県	6	1	2	3	
39 奈良県	6	3	0	3	
40 青森県	5	3	2	0	
41 富山県	5	2	3	0	
42 島根県	5	4	1	0	
43 鳥取県	4	2	2	0	
44 大分県	4	1	2	1	
45 石川県	3	2	1	0	
46 香川県	3	1	0	2	
47 佐賀県	1	1	0	0	

2025年秋 — 集中する開業動向と地域差が鮮明に



2025年10月～12月の病院・診療所開業数は全国で1,466件となりました。月別では10月が最多となり、年末に向けて減少する全国傾向が確認されています。一方で、都道府県別に見ると、大都市圏では安定的に開業が続く「均等化型」、地方圏では特定月に集中する「単月偏重型」など、地域によって異なる特徴も見られました。

本章では、全国ランキングと月別推移をもとに、2025年第4四半期における地域別の開業動向を分析します。

■ 年度後半入り直後の10月に開業が集中

2025年10月～12月の全国開業数1,466件のうち、月別では10月が607件、11月が511件、12月が348件となっており、**10月をピークに年末にかけて減少する推移**が見られます。

特に東京都は10月だけで165件を記録しており、10月の全国開業数607件の約27%を占めました。全国全体の開業動向を東京都が大きく牽引した構図となっています。

また、北海道は10月32件・11月19件・12月6件、茨城県は10月16件・11月6件・12月2件となっており、一部地域では10月に開業が集中し、その後減少する傾向も確認されました。

全国的に見ると、10月に開業準備や施設開設のタイミングを合わせる動きが強く、その後は年末に向けて減少する流れとなりました。特に12月は348件まで減少しており、全国的に見ても年末は開業件数が落ち着く傾向が見られます。

■ 首都圏・都市部への開業集中が継続

都道府県別ランキングでは、東京都が370件で全国最多となり、全国の約25%を占めました。2位以降は大阪府、愛知県、神奈川県、埼玉県となっており、上位は三大都市圏に集中しています。

特に東京都は、2位の大阪府を大きく上回る開業数となっており、全国の中でも突出した開業集積地となりました。また、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県を合わせた**首都圏1都3県の開業数は623件となり、全国総数の約42%**を占めています。人口集積地域を中心に高水準の開業数が続いており、首都圏への医療開業集中傾向が継続していることがうかがえます。

また、大阪府は39件→40件→35件と3か月を通じて安定した推移を示しており、愛知県も名古屋圏を中心に高水準を維持しました。都市部では年間を通じて一定の開業需要が存在している点が特徴となっています。

2025年秋 — 集中する開業動向と地域差が鮮明に

■ 地域ごとに異なる開業タイミングの特徴

今回のランキングでは、地域ごとに月別推移の違いが見られました。全国では「10月集中型」が主流となる一方、一部地域では年間を通じて均等に開業が発生する地域も確認されています。

大都市圏では、大阪府が39件→40件→35件、兵庫県が20件→20件→14件と、3か月を通じて比較的安定した推移を示しました。また、新潟県は7件→6件→5件、長野県は5件→7件→7件となっており、特定月に偏らず一定数の開業が継続しています。**人口集積地域や都市近郊では、年間を通じた安定開業型の傾向**が見られます。

一方、**地方圏では特定月に開業が集中する地域**も目立ちました。北海道は32件→19件→6件、宮崎県は12件→3件→1件となっており、10月集中型の特徴が強く表れています。さらに秋田県は7件すべてが10月集中、長崎県は11月に6件集中し12月は0件となるなど、「**単月偏重型**」の地域も確認されました。

また、埼玉県は23件→42件→23件と11月に大きく増加しており、全国平均とは異なる推移を示しています。滋賀県も5件→9件→9件と後半にかけて件数を維持しており、**一部地域では年度後半にも開業需要が継続している状況**が見られました。

【開業タイミング】 地域別 分類一覧表

分類	都道府県	10月	11月	12月	特徴
均等化型	大阪府	39	40	35	3か月を通じて安定推移
	兵庫県	20	20	14	大きな変動なく推移
	新潟県	7	6	5	特定月への集中が少ない
	長野県	5	7	7	後半も一定数を維持
10月集中型	北海道	32	19	6	10月に集中しその後減少
	宮崎県	12	3	1	10月偏重が顕著
単月偏重型	秋田県	7	0	0	全件が10月に集中
	長崎県	2	6	0	11月に集中
後半増加型	埼玉県	23	42	23	11月がピーク
	滋賀県	5	9	9	11~12月も高水準を維持



全国病院&診療所開業ランキング
2023~2025年
過去3年間比較

全国病院&診療所 開業数ランキング/2023年~2025年

次に、2023年~2025年の3年間における、10月~12月の全国の病院&診療所の開業数を比較してみました。

結果は次の通りです。

※3年間の開業数合計が多い都道府県順に表示しております。

病院&診療所 / 10月~12月開業数				
都道府県	3年間合計	2023年	2024年	2025年
TOTAL	4092	1462	1164	1466
1 東京都	975	350	255	370
2 大阪府	353	114	125	114
3 神奈川県	281	93	98	90
4 埼玉県	248	85	75	88
5 愛知県	220	71	56	93
6 千葉県	204	77	52	75
7 北海道	179	72	50	57
8 兵庫県	156	60	42	54
9 福岡県	147	49	36	62
10 京都府	107	30	46	31
11 静岡県	87	34	18	35
12 広島県	81	39	21	21
13 宮城県	63	20	15	28
14 滋賀県	58	19	16	23
15 新潟県	53	19	16	18
16 長野県	52	20	13	19
17 茨城県	51	15	12	24
18 沖縄県	48	24	12	12
19 岐阜県	46	17	11	18
20 三重県	45	16	21	8
21 福島県	43	11	23	9
22 鹿児島県	42	16	10	16
23 栃木県	39	14	11	14
24 岡山県	37	12	9	16
25 宮崎県	32	11	5	16
26 山形県	30	14	7	9
27 熊本県	30	14	5	11
28 岩手県	29	8	9	12
29 長崎県	28	14	6	8
30 群馬県	25	11	5	9
31 和歌山県	24	9	4	11
32 徳島県	24	12	5	7
33 奈良県	23	8	9	6
34 愛媛県	21	6	6	9
35 福井県	19	8	5	6
36 山梨県	19	6	1	12
37 青森県	18	7	6	5
38 石川県	18	7	8	3
39 山口県	18	6	2	10
40 秋田県	17	4	6	7
41 富山県	17	7	5	5
42 島根県	17	7	5	5
43 香川県	17	7	7	3
44 大分県	16	6	6	4
45 高知県	15	5	2	8
46 佐賀県	12	6	5	1
47 鳥取県	8	2	2	4

2025年の病院・診療所開業数は1,466件となり、2024年の1,164件から大きく回復し、3年間で最多となりました。

特に東京都は255件から370件へ増加し、愛知県や福岡県でも開業数の伸長が見られています。

一方で、沖縄県や広島県など、一部地域では減少または横ばい傾向も継続しており、地域ごとの差が見られました。

首都圏・中京圏が牽引した開業数の回復

【全国増加分への寄与率】

※(2025年-2024年の増加件数)÷ 全国増加数302件 ×100 にて計算

都道府県	増加件数	寄与率
東京都	115	38.1%
愛知県	37	12.3%
福岡県	26	8.6%
千葉県	23	7.6%
宮城県	13	4.3%
埼玉県	13	4.3%
茨城県	12	4.0%
山梨県	11	3.6%
宮崎県	11	3.6%
山口県	8	2.6%
岡山県	7	2.3%

全国回復を牽引した東京都・愛知県・福岡県

2024年から2025年にかけての増加件数を見ると、**東京都**は255件から370件へ115件増加し、全国増加分302件のうち38.1%を占めました。**単独で全国回復の約4割**を担っており、2025年の開業数増加を最も強く牽引した地域となっています。

続いて、愛知県は37件増加(+66.1%)、福岡県は26件増加(+72.2%)、千葉県は23件増加(+44.2%)となりました。**東京都・愛知県・福岡県の3都県だけで全国増加分の約59%**を占めており、大都市圏を中心とした回復傾向が鮮明に表れています。

一方で、大阪府は125件から114件へ減少し、神奈川県も98件から90件へ減少しました。上位常連地域である関西圏が今回の回復局面を牽引していない点は特徴的であり、2025年は首都圏・中京圏・九州中枢都市圏が回復の中心となったことがうかがえます。

増加率では地方圏の伸長も目立つ

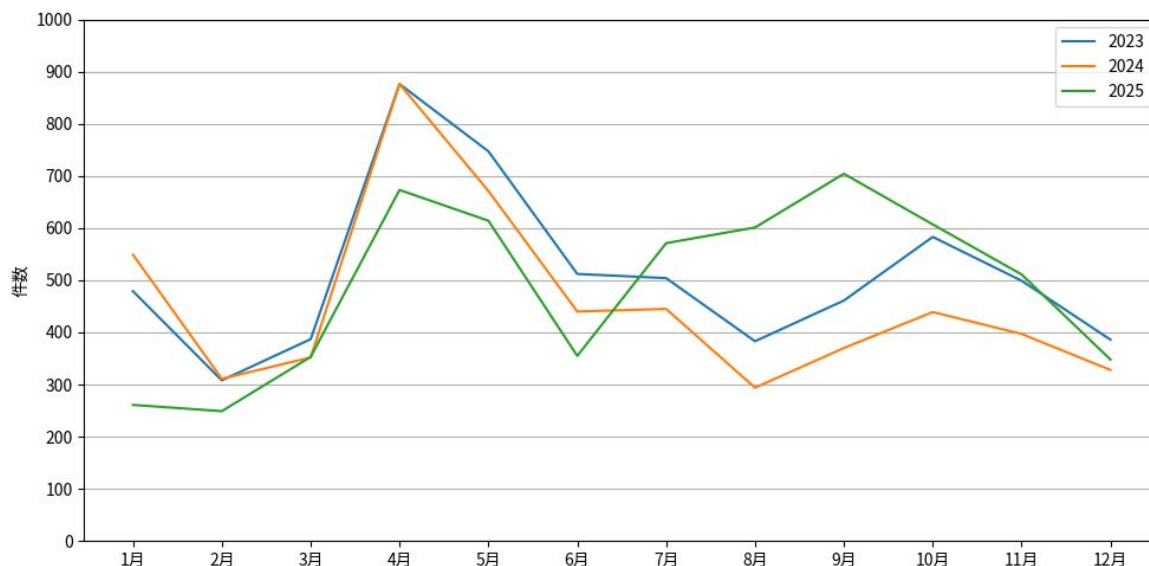
増加率に着目すると、地方圏でも大きく開業数を伸ばした地域が見られます。山梨県は1件から12件へ増加し、増加率は1,100%となりました。また、山口県は2件から10件へ増加して400%、宮崎県は5件から16件へ増加して220%、茨城県は12件から24件へ増加して100%を記録しています。

これらの地域は絶対数では大都市圏に及ばないものの、前年からの伸び率という観点では全国でも高い水準となりました。2025年の開業数回復は東京都を中心とする大都市圏が牽引した一方で、地方圏にも回復の動きが広がっていたことが特徴といえます。

2023～2025年 年間月別推移の概要

下記の折れ線グラフ「2023年から2025年までの月別開業数推移」を見ると、2024年に一度減少した開業数は2025年に回復し、特に後半にかけて高水準で推移しました。ここでは、3年間の月別推移を比較しながら、開業タイミングの変化や季節性の特徴について分析します。

【病院&診療所】2023年～2025年 月別開業数の推移



【1】2024年から2025年にかけて開業数は回復

2024年の開業数は年間合計5,472件となり、2023年の6,125件を下回りました。一方で、2025年は5,847件となり、前年から375件増加して再び高水準の開業数となりました。

また月別推移を見ると、2025年は春以降に安定した件数を維持しており、特に後半にかけて増加傾向が見られました。

【2】4月は3年間を通じて開業数が集中

月別では、4月が引き続き開業数のピークとなっています。2023年4月は876件、2024年4月も876件を記録しており、2025年も673件と年間最多水準となりました。

新年度開始のタイミングが医療機関の開業時期として定着していることがうかがえます。

【3】2025年は後半も高水準を維持

2025年は7月571件、8月601件、9月704件、10月607件、11月511件と、7月から11月まで5か月連続で500件を超えました。これは、2023年および2024年には見られなかった推移です。

※2025年夏の開業の詳細については、前回レポート「全国医療施設 開業ランキング レポート ver3」を参照ください。

【4】年末に向けて開業数は減少

一方で、12月は2023年386件、2024年328件、2025年348件となっており、いずれの年も10月・11月を下回っています。年ごとの差はあるものの、年末に向けて開業数が減少する傾向は3年間を通じて共通して見られました。開業タイミングは分散しつつある一方で、年末の減少傾向は依然として継続していることが確認できます。



全国病院&診療所 診療科目別
2023年~2025年 10月~12月
過去3年開業数比較

全国診療所・病院 診療科目別 月別開業ランキング

10月から12月に開業した診療所・病院について、診療科目別かつ月別に見てみました。
その結果、次のような結果となりました。

診療所 / 2025年10月~12月 開業数					
	診療科目	合計	10月	11月	12月
	ALL	1466	607	511	348
1	歯科診療所	483	213	171	99
2	内科	458	197	147	114
3	形成・整形・美容外科	87	30	38	19
4	心療内科・精神科	79	23	29	27
5	皮膚科	79	35	28	16
6	小児科	73	28	24	21
7	眼科	57	19	15	23
8	耳鼻いんこう科	39	18	16	5
9	産科・婦人科・助産	37	15	14	8
10	外科	19	10	6	3
11	泌尿器科	16	5	8	3
12	一般診療所	10	4	4	2
13	脳神経内科・外科	8	3	1	4
14	リハビリ	4	0	3	1
15	麻酔科	4	0	3	1
16	人工透析科	2	1	0	1
	病院	11	6	4	1

2025年10~12月の診療科目別開業数では、歯科診療所が483件、内科が458件となり、**両診療科で全体の約64%を占めました。地域医療の基盤となる診療科が引き続き開業の中心**となっており、診療所開業の需要が安定していることがうかがえます。

月別では、全体と同様に**10月の開業数が最も多く、その後11月、12月と減少する傾向が確認**されました。一方で、眼科は12月が最多となるなど、診療科ごとに異なる推移も見られました。

全国診療所・病院 診療科目別ランキング /2023年～2025年

次に、2023年～2025年の3年間における10月から12月に開業した診療所・病院について、診療科目別かつ年別の開業数ランキングは、下記の通りです。

※3年間の開業数合計が多い都道府県順に表示しております。

診療所 / 10月～12月 開業数					
	診療科目	3年間合計	2023年	2024年	2025年
	ALL	4092	1462	1164	1466
1	歯科診療所	1369	523	363	483
2	内科	1251	426	367	458
3	形成・整形・美容外科	235	94	54	87
4	心療内科・精神科	229	69	81	79
5	小児科	198	57	68	73
6	皮膚科	195	50	66	79
7	眼科	167	72	38	57
8	耳鼻いんこう科	107	41	27	39
9	産科・婦人科・助産	97	33	27	37
10	外科	48	13	16	19
11	泌尿器科	48	12	20	16
12	脳神経内科・外科	40	25	7	8
13	一般診療所	30	13	7	10
14	人工透析科	10	3	5	2
15	リハビリ	8	3	1	4
16	麻酔科	8	3	1	4
	病院	52	25	16	11

2025年10～12月の開業数は2024年から大きく回復し、内科や診療内科・精神科を中心に2023年水準を上回る診療科も見られました。一方で病院開設数は11件にとどまり、2023年の25件を下回っています。

ただし、2025年は7～9月に病院開設数が25件となり(※1)、過去3年で最多を記録しました。2025年後半は病院開設が第3四半期に集中した一方、第4四半期は診療所を中心とした開業が増加しており、**医療施設の種別によって異なる開業動向**が見られました。
(病院開設時期の分析については、前回レポート「全国医療施設 開業ランキング レポート ver3」もご参照ください)

※1 Review独自の開業データより引用



【コラム】 医師はいつ独立するのか

【コラム】 医師はいつ独立するのか

開業市場を理解するうえで、医師がどのタイミングで独立を決断するのか、また診療科ごとにどのような違いがあるのかを把握することは重要です。本コラムでは、厚生労働省統計や日本医師会の調査結果をもとに、4つのキーワードで開業傾向について考察します。

① 41.3歳 ……医師が独立開業する平均年齢

医師の開業年齢について、公的機関が継続的に公表している統計は限られていますが、日本医師会総合政策研究機構(日医総研)の調査によると、**新規開業医の平均開業年齢は41.3歳**でした。また、開業の検討を始める年齢は平均39.1歳、準備開始年齢は40.2歳であり、検討開始から開業までは平均2.2年を要しています。

一方で、近年は開業年齢が上昇する傾向にあります。同調査では、30年以上前に開業した医師の平均開業年齢が37.5歳だったのに対し、調査時点から5年以内に開業した医師では44.9歳となっています。

医学部卒業後に医師免許を取得する年齢を24~25歳とすると、現在の医師は**勤務医として15~20年程度の経験を積んだ後に独立開業するケースが一般的**であると考えられます。

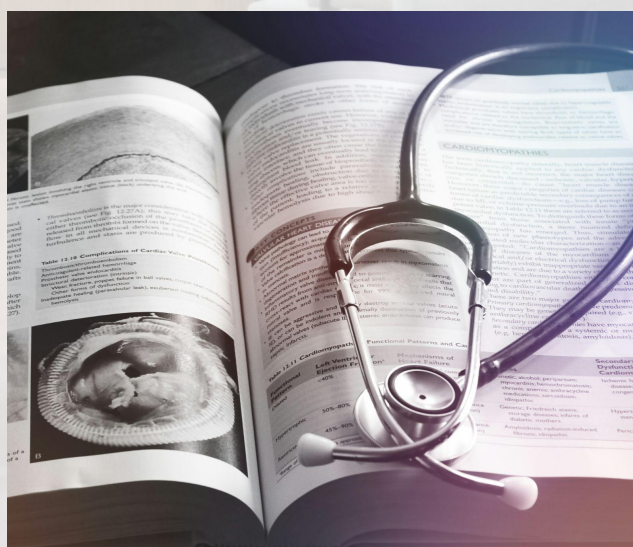
出典:日本医師会総合政策研究機構「開業動機と開業医(開設者)の実情に関するアンケート調査」2009年9月

② 21.6% ……独立開業医の割合

厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」によると、2024年時点の医師数は347,772人です。そのうち、病院または診療所の開設者・法人代表者として従事している医師は74,988人であり、全医師に占める割合は**約21.6%**となっています。

つまり、日本の医師のおよそ5人に1人が、自ら医療機関を経営する立場にあることになります。

また、診療所で働く医師に限定すると、診療所開設者・法人代表者の割合は約62.7%に達しており、診療所勤務医の多くが経営者として診療に従事していることが分かります。



出典:厚生労働省「令和6(2024)年 医師・歯科医師・薬剤師統計の概況」

【コラム】 医師はいつ独立するのか

③ 内科、眼科、皮膚科 …開業しやすい診療科

医師全体の独立割合だけを見ると約21.6%ですが、実際には診療科によって独立・開業のしやすさに大きな差があります。

厚生労働省の統計から診療所従事割合を確認すると、**内科(64.8%)、眼科(64.0%)、皮膚科(61.1%)、耳鼻咽喉科(56.8%)**では、**半数以上の医師が診療所で勤務**しています。

一方、救急科(1.7%)、麻酔科(5.8%)、外科(18.2%)などは病院勤務が中心であり、開業というキャリアパスを選択する医師は比較的少数です。

これは診療科ごとの診療スタイルや必要設備、病院との連携の重要度などが大きく影響しているためです。

【診療科別「開業しやすさ」傾向】

※「診療所従事割合」が高いほど診療所開業というキャリアパスが一般的であり、低いほど病院勤務が中心と言えます

主たる診療科	医療施設従事医師数	診療所従事医師数	診療所従事割合
内科	62,161	40,296	64.8%
眼科	13,436	8,597	64.0%
皮膚科	10,043	6,136	61.1%
耳鼻咽喉科	9,330	5,303	56.8%
小児科	18,009	7,035	39.1%
整形外科	22,630	7,971	35.2%
精神科	17,259	4,895	28.4%
外科	12,341	2,240	18.2%
麻酔科	10,628	618	5.8%
救急科	4,081	70	1.7%

データ出典：厚生労働省「令和6(2024)年 医師・歯科医師・薬剤師統計の概況」

一般的に、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、内科などは開業しやすい診療科とされています。これらの診療科は外来診療が中心であり、入院設備を必要としないケースが多いためです。

また、比較的少人数のスタッフで運営できることから、開業後の経営も安定しやすい傾向があります。

一方、外科や救急科、麻酔科などは病院機能との結びつきが強く、手術設備や入院設備が必要となるケースも多いため、開業率は低くなっています。

整形外科は診療所開業が一般的な診療科ではあるものの、リハビリ設備や検査機器への投資が必要となるため、他の外来系診療科と比較すると開業までに時間を要する傾向があります。

【コラム】 医師はいつ独立するのか

④ 「経験」と「設備投資」・・・開業年齢を左右する最大の要因

診療科によって開業年齢に差が生じる背景には、医師としての経験年数だけでなく、必要となる設備投資額の違いがあります。

例えば、皮膚科や精神科は比較的少額の設備投資で開業できる一方、眼科や整形外科では高額な医療機器の導入が必要になる場合があります。また、外科系診療科では十分な手術経験や専門性が求められるため、病院勤務期間が長くなる傾向があります。

その結果、設備投資が小さく外来中心の診療科では40代前半での開業が多く、設備投資や専門性が求められる診療科では40代後半から50代での開業が増える傾向が見られます。

現在の日本では、勤務医として十分な経験を積み、専門性や経営基盤を整えたうえで独立するケースが主流となっています。



参考: 歯科医師は医師よりも独立開業する割合が高い

開業が主要なキャリアパスとして確立

医師と比較した場合、**歯科医師は独立開業を選択する割合が大幅に高い**ことが特徴です。

厚生労働省のデータによると、歯科医師総数は約10.3万人であり、そのうち約8.8万人が歯科診療所に従事しています。また、歯科診療所の開設者・法人代表者は約5.4万人にのぼります。

これらの数値から概算すると、医師の独立割合が約22%であるのに対し、**歯科医師の独立割合は約50%前後と推定**されます。つまり、歯科医師は医師の2倍以上の割合で独立開業していると考えられます。

この背景には、歯科では診療所経営が一般的なキャリアパスとして定着していることが挙げられます。実際に、多くの歯科医師は勤務医として経験を積んだ後、自ら歯科医院を開業することを前提にキャリアを設計しています。

また、歯科診療は基本的に外来中心であり、医科のように入院病床や大規模な医療体制を必要としません。地域密着型のビジネスモデルを構築しやすいことに加え、インプラント治療や審美歯科、矯正歯科などの自費診療を取り入れることで、独自の経営戦略を展開しやすいという特徴もあります。

こうした環境が、独立開業を後押しする要因となっています。



全国医療開業レポート ver4 まとめ

開業数は回復基調へ — 広がる開業タイミングと多様化する診療ニーズ

2025年10～12月の医療施設開業市場は、前年からの回復が鮮明となった四半期でした。開業数は全国的に増加し、首都圏や中京圏を中心に活発な動きが見られた一方で、地方圏にも回復の兆しが広がっています。

また、開業時期や診療科目の選択にも変化が見られており、医療開業市場は従来の傾向を維持しながらも、新たな局面へ移行しつつあることがうかがえます。



■ 地域ごとに異なる開業動向

2025年10～12月における病院・診療所の開業数は1,466件となり、前年同期の1,164件から大きく増加しました。2024年に見られた減少傾向から回復し、2023年をわずかに上回る水準まで持ち直したことから、医療施設の開業市場は再び活発化していることがうかがえます。

地域別に見ると、東京都が370件で全国の約4分の1を占め、引き続き全国最大の開業集積地となりました。また、愛知県や福岡県などでも開業数の増加が見られ、2025年の回復は首都圏だけでなく、中京圏や九州の中核都市にも広がっています。一方で、大阪府や神奈川県などの一部大都市圏では前年を下回る結果となり、回復の度合いには地域差も見られました。

■ 地域医療を支える基幹診療科と専門クリニックの拡大

開業時期にも変化が見られています。4月の開業集中は依然として続いているものの、2025年は7月から11月まで高水準の開業数が継続し、9月には過去3年間で最多となる704件を記録しました。従来の「春集中型」に加え、年度後半にも開業が分散する傾向が見られましたが、開業タイミングの多様化が進みつつあるのか、もしくは2025年特有のものなのかは、引き続き注視が必要です。また、年末にかけて開業数が減少する傾向は2025年においても同様でした。

診療科目別では、歯科診療所と内科が依然として開業の中心を担っています。両診療科で全体の6割以上を占めており、地域医療を支える基幹診療科への需要は引き続き高い状況です。その一方で、形成・整形・美容外科、心療内科・精神科、皮膚科といった専門クリニックの開業も活発であり、医療ニーズの多様化を反映した動きも確認されました。

回復の先に見える、新たな開業の道

今回の調査から見てきたのは、単なる開業数の回復ではありません。

東京都を中心とした大都市圏への集中は依然として続いていますが、その一方で**地方圏にも回復の動き**が広がりました。

「人口動態の変化」

「地域医療構想の進展」

「患者ニーズの多様化」

など、
医療を取り巻く環境は今後も変化を続けます。

その中で開業動向は、地域医療の将来像や社会課題を映し出す重要な指標の一つとなっています。

2025年後半の開業データは、
医療開業市場が回復局面に入ったことを示すと同時に、
新たな競争環境と成長機会が生まれつつあることを示唆していると言えるでしょう。

医療施設のこれからの開業は、地域ごとの需要変化や診療科ごとの競争環境、さらにはタイミングまで含めた総合的な視点が、これまで以上に重要になっています。

本レポートが、これからの医療開業を考える皆さまにとって、
新たな視点や判断材料となれば幸いです。

【データ・レポートに関するお問い合わせ】

株式会社Review(リビュー) 広報
担当:五味川
E-mail:gomikawa@re-view.co.jp